

自然観察 NOW

NO.76

野幌森林公園自然情報

発行：2024年3月21日

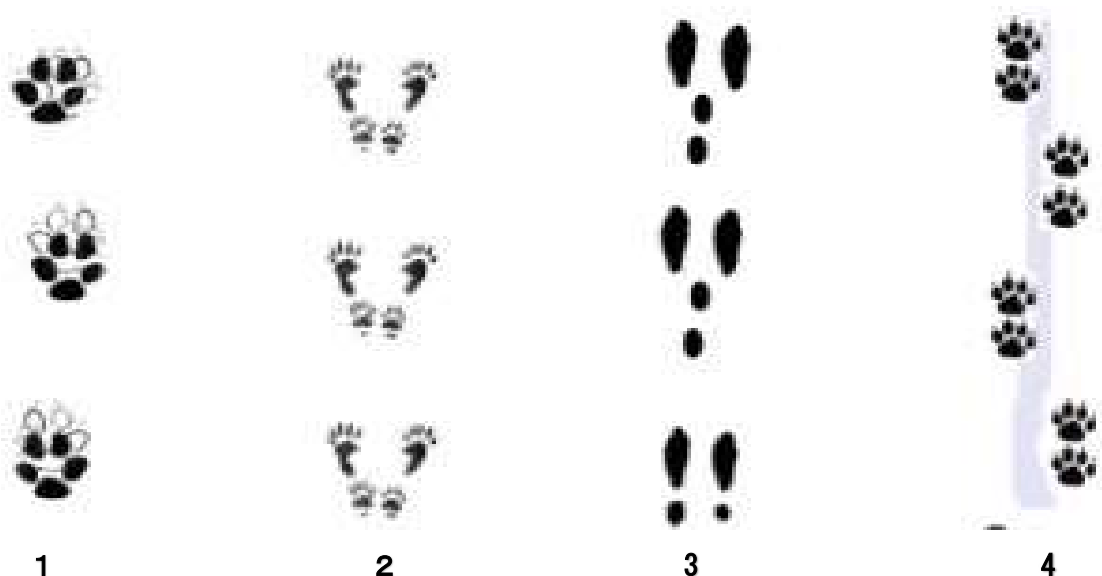
北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



アニマル・トラッキング

春が近づき、冬眠せずに活動している野生動物の足跡やウンチ、エサの食べ残しなど「フィールドサイン」がを見つけやすくなります。これらフィールドサインを手掛かりに、普段はあまり見ることができない動物たちの暮らしぶりを想像してみるのも、森の楽しみ方のひとつです。アニマル・トラッキングの手始めは足跡の鑑定です。



1、キタキツネは最近どこでも見かけるようになり、足跡もたくさん残されています。

イヌと似てますが、左右の足跡にぶれがなく、ほとんど一直線なのが特徴です。しかし、全速力で走った場合にはイヌの駆足やウサギの並足のような足跡になります。野生のキツネは野ネズミや昆虫を餌にしています。冬はもっぱら野ネズミを捕っているようです。キツネが雪を掘って野ネズミを探した跡を見ることがあります。

2・3、ウサギとリスはともに並足が跳躍前進であるという特徴があります。

ウサギはまれに交互歩行をすることがありますが、リスの交互歩行は地上で見る事が無いと思います。北海道のウサギ科にはエゾユキウサギとエゾナキウサギがいますが、ナキウサギは高山の岩石帯に生息に限られる上、冬は餌をため込んで穴籠もりするので足跡を見る機会はほとんどありません。

リス科にはエゾリスの他にエゾシマリスとエゾモモンガがいます。シマリスは巣穴に餌をため込んで冬籠もりをし、春先まで雪上に出ることはありません。モモンガは木から木に滑空して飛び移るので地上に降りることはほとんどなく、木から落ちたとき以外、足跡を見ることはありません。

北海道の野ウサギはエゾユキウサギといい、山野のどこでも足跡を見かけます。並足の跡で大きくて横に並んでいるのが後足、その後に小さく縦に並んでいるのが前足の跡です。いわゆるウサギ跳びという跳躍前進です。駆足になっても、歩幅が大きくなって乱れる以外、変わりはありません。イヌ科の動

物のような交互歩行はほとんどしません。

エゾユキウサギの冬季の食べ物は木の皮、小枝、芽、枯れ草などです。あちこちで食事をした跡が見られ、その場所には糞が残されていることがよくあります。

野ウサギの足跡をどこまでも辿っていくと、急に足跡がとぎれてしまうことがあります。これを「トメ足」と言います。キツネなどの天敵に跡をつけられて、寝込みを襲われないための知恵です。足跡を消す手口は、数歩ほど後戻りをしてから遠くにジャンプするのです。しかし、人間はそのことを知っているので、「トメ足」を見つけると、近くにウサギが寝ているなどわかってしまうのです。エゾリスは移動するとき、木を飛び移ることが多く、地上に降りるのは遠く離れた木に行くときか、餌を探すときです。秋にクルミなどの木の実を地中に埋めておいて、冬の間はこれを雪の下から掘り出して食べます。雪の下のをよく見つけるものだと思いますが、見つからないことも多いようです。見つからなかったクルミはやがて芽を出して生長するので、エゾリスが繁殖を手助けしていることになります。

エゾリスが餌を探すのは主に夜明けの頃ですが、それ以外の時にも見ることは多いので、運が良ければクルミを掘っている姿を見ることができでしょう。

4.エゾタヌキの並足の跡は、イヌによく似ていて見分けるのはなかなかたいへんです。

イヌよりも足が短いので、足を引きずったような跡や深雪では腹をすった跡が見分けるポイントです。

タヌキの主な餌は、地中の昆虫や小動物、果実などです。タヌキはキツネほど俊敏ではないので、餌の不足する北海道の冬は厳しいものです。さらに、タヌキの足の裏（肉球）にはキツネのような毛が生えていないそうです。これでは足が冷たいので、雪の上を歩くのは苦手なのでしょう。

足跡以外のフィールドサイン



エゾユキウサギの糞



エゾリスの糞と足跡



キタキツネの糞（ネズミ骨入り）



エゾリスの食痕（カラマツ）



エゾリスの食痕（オニグルミ）



エゾリスの食痕（ツタウルシ）
（写真：自然ふれあい交流館提供）

今後の観察会予定

・春の花を見つけよう 4月18日(木) 9:50-12:00 自然ふれあい交流館～エゾユズリハコース往復"

文責：小林 英世